

2010

別府史談

第二十三号



別府史談會

(表紙写真)

寿 温 泉

別府市流川通りから中浜筋に入るとすぐに「寿温泉」にお目にかかる。

明治期、床屋^{とこや}の床下から温泉が湧いていたので“床下の湯”と呼ばれていた。この温泉を港町の有志が浴場に改造したのが明治 32 年（1899）である。

別府の温泉建築の主流は和風であったが、大正 13 年 4 月 1 日別府市制施行を契機に温泉都市の発展を願って大分県理事官大木俊輔別府市長職務管掌（初代別府市長神澤又市郎は同年 9 月 26 日就任）によって建築費 7,286 円を投じて、大正 13 年 8 月モダンな洋風建築に改築され名称を「寿温泉」と名づけた。

新築当時は、木造 2 階建て屋根はスレート葺きの三連のアーチ形換気窓が付き、入口や窓上にもアーチを多用して斬新で近代的な女性を感じさせるアールデコ風の温泉建築であった。

現在は玄関ポーチも取り払われ、浴場上の屋根も改装され、東側の浴場入口前は店舗でふさがれて、当時の面影は薄れている。

市有区営の温泉で泉質は炭酸性単純泉である。

[文責：外山 健一]